

地域のサステナビリティへの貢献

TNFD※への賛同

当行が主たる営業基盤としている三重県は、森林面積が県土面積の約65%を占める緑豊かな地域となっています。また、沿岸部は1,000kmを超える海岸線を有し、水産資源も豊富で自然環境に恵まれています。



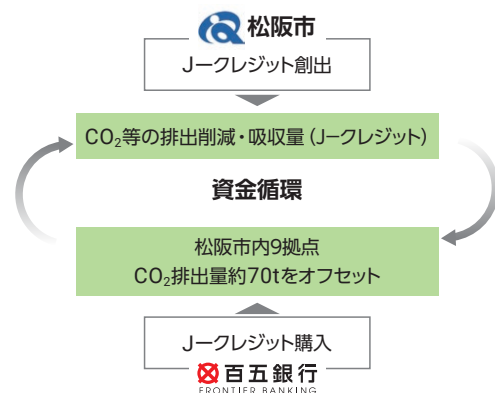
TNFDフォーラムの参画を通じて、これまで以上に、三重県をはじめとする地域の自然資本の活用や生物多様性保全への取り組みを進めていきます。

※ TNFD (Task force on Nature-related Financial Disclosures) 自然関連財務情報開示タスクフォース
自然に関する企業のリスク管理と情報開示の枠組みを構築するため、国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI)、国連開発計画 (UNDP)、イギリスの環境NGOであるGlobal Canopy、および世界自然保護基金 (WWF) により2021年6月に発足した国際組織

森林資源の循環利用に向けた取り組み

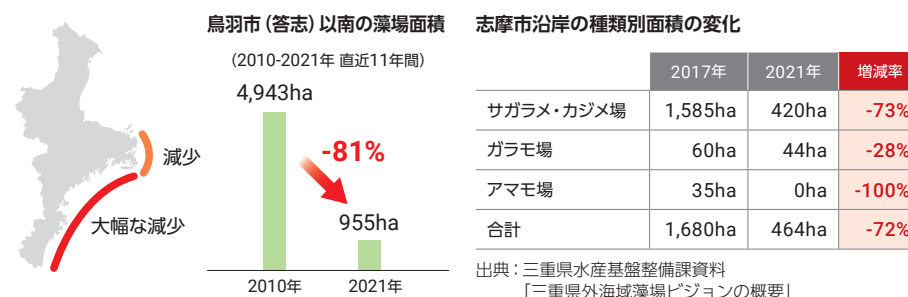
地域における森林資源の循環利用を目的として、松阪市が国の認証を受けた森林由来のJークレジット「松阪市未来につなぐ森林管理Jークレジット」を購入しました。Jークレジットの購入を通じて、松阪市における森林整備の促進に貢献するとともに、百五銀行グループの松阪市内拠点におけるCO₂排出量のカーボンオフセットに活用しています。

当行は、2024年10月に、地域における森林保全活動の一環として「三重の自然由来カーボンクレジット活用推進に向けた連携プラットフォーム」に地域金融機関として参画しており、今後も、地域資源を活用した脱炭素社会・循環型経済への移行に取り組んでいきます。



水産業振興と海洋保全への取り組み

近年、地球温暖化等による海水温の上昇やアイゴ・ブダイなどの植食性魚類等による食害で藻場（海藻の群落）が減少する「磯焼け」が大きな問題となっています。特に、三重県南部の沿岸では藻場の衰退・消失が急速に進み、海藻の収穫量が減少するなど、水産業の持続可能性に影響を及ぼしています。



当行では、地場産業である水産業の課題解決に向けて、藻場の保全や海洋資源の有効活用につなげる取り組みを開始しています。2025年1月に、三重県や漁業関係者と連携し、磯焼けの主要な原因の一つであるアイゴなどの植食性魚類を漁獲し、食用として利用する「未利用魚を活用した食堂イベント」を開催しました。

今後も、地域の関係者と連携しながら、藻場の維持・再生・創出による海の生態系や環境の保全に取り組むことで、地場産業のサステナビリティ向上をめざしていきます。

